

## 令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東京藝術大学	タイプ	A①
事 業 名	日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築		
海外の相手大学	中国伝媒大学、韓国芸術総合学校、シラパコーン大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、日中韓での共同制作カリキュラムの飛躍的向上の実績をもとに、アニメーション専門の教育課程を持つ大学が少なく、実技を行う大学院課程を保有する大学も皆無であるというASEANの現状を踏まえて「アジアアニメーション教育ネットワーク」を構築するという意欲が明確に示されている。具体性及び展望が見受けられ、ユニークな優れた企画であると評価できる。アートを基軸とした「共生・共創プラットフォーム」を構築するとの先駆的取組を志向し、緻密な計画が立案されている。事業領域の特性にもよるが、広範な産業界との具体的な連携が実績として積み重ねられている点は大いに評価できる。

また、留学や交流の基本ツールとしての語学力の重要性を踏まえ、無理のない目標（英語検定標準）を掲げつつ、分野の特性を踏まえた実践的なコミュニケーション力の強化に着目し、特別講義や専任准教授による実践的な講座等の取組に工夫を凝らしている点は高く評価できる。本事業計画を通して養成する人材像も明確である。

更に、これまでの大学の世界展開力強化事業やスーパーグローバル大学創生支援事業等により外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境が既に整備されており、それを踏まえた特色あるプログラムである。産業界との連携が強みとなっており、大学院でのダブルディグリー課程の実施が概ね確定している。大学の自己負担額が毎年増える計画がなされており、自走化に向けた資金計画がされている点も評価できる。

一方で、全般的に第2モードからの継続性が強く、ASEANの大学が加わることによる新規性、発展性が十分とは言えない面も見受けられる。交流学生数の目標が少なく、単位互換について計画されているのは韓国の一大学だけに留まっており、認定者数、認定単位数ともに少ない点、また、計画調書にあるカリキュラムには、共同制作、レクチャー、ワークショップ等の個々独立した開講が示されているのみで、系統性に欠ける面がある点等、気になる点もあり、実施にあたってはより一層の検討と工夫を求めたい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。